

教育部会

令和6年度 活動報告

地域サポートセンター仲よし 川口 芳美
相談支援センター鹿田 土肥 耕介

【活動目的】

- ①学校間(市と県、小・中・高)の連携、および教育と福祉の連携を深めると共に、地域ごとに児童・生徒を支えていくための仕組みづくりを行う。
- ②特別支援学校高等部3年間で、福祉制度等の必要な情報提供と相談窓口へのつなぎを行う。

【活動内容】

- ・教育と福祉の連携における課題について、個別支援よりも大きな枠組で捉えて検討する。検討した結果を関係機関で共有する。
- ・協議会の各専門部会との連携、他機関への働きかけを行う。

【構成員】

- ・ 旭川荘療育・医療センター顧問
- ・ 岡山市障害福祉課
- ・ 岡山市教育委員会
- ・ 岡山県教育庁特別支援教育課
- ・ 特別支援学校 8 校（岡山市に所在地がある学校）
- ・ 相談支援事業所（各地域部会代表）
- ・ 岡山市障害者基幹相談支援センター



【開催】

2ヶ月に1回 旭川荘内にて（5/21、7/16、9/13、11/8、1/10、3/14）

令和6年度の活動実績

1. 教育と福祉の連携の推進（ワーキンググループによる活動）

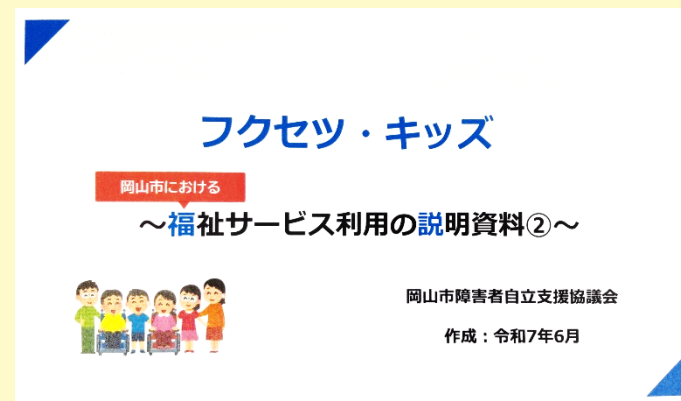
WG①情報発信

『フクセツ・キッズ～福祉サービス利用の説明資料②～』の作成

- ・ 障がいのあるこどもが利用できるサービスの情報をわかりやすく提供する
- ・ 特別支援学校に在籍している生徒の保護者にアンケートを実施
- ・ 1月に回答を集約し、3月に素案を作成

（福祉サービスを利用している方の声を掲載）

→ メンバーで練り直しの末、6月に完成！！



令和6年度の活動実績

WG② 勉強会・座談会の開催

日時：令和7年2月18日(火)13：30～15：50

場所：岡山市ウェルポートなださき かしの木ホール

テーマ：福祉と教育の連携に関するグループワーク

「お互いを知ろう！！」

参加者：市立中学校教職員4名、特別支援学校教職員9名

相談支援専門員25名、行政2名 計40名

課題：「福祉と教育の情報共有の場の少なさ」

「不登校や支援ニーズの高い児童へ支援する困り感」

○相互理解や視点の違いへの気づき、顔の見える関係づくりの必要性

○参加者の満足度は高く、次回も同テーマでの開催を希望する声が多く挙がった



令和6年度の活動実績

2. 特別支援学校の学校行事の実施

- 福祉制度説明会、地区別懇談会、移行支援会議の実施

福祉制度について、本人・家族、学校、福祉、行政で共有できている。

- 生活介護事業所説明会の実施（オンライン形式）

事業所説明資料の医療的ケアに関する欄を充実させたが分かりにくさも…。

→倉敷市が使っている資料を参考にして、分かりやすい表にしていく。

3. 医療的ケア児の支援に関する検討

医療的ケア児WGに参加して、学齢期の医療的ケア児の課題を検討。

避難行動要支援計画の作成や災害に備える心構えの必要性を部会で共有した。

令和6年度の活動実績

4. 地域課題の検討

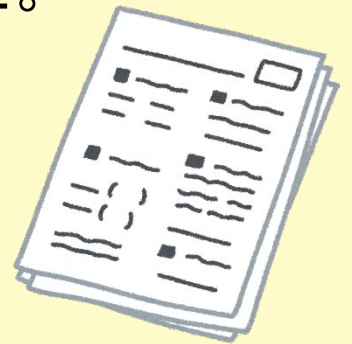
他の部会から挙げた地域課題について情報交換や検討を行った。

＜就労支援部会より＞

- ・ 就労継続支援B型の利用に係る就労アセスメントの実施手順の確認および相談支援専門員との情報共有について

→部会で実施手順の説明があり、就労支援部会や地域部会で共有した。

相談支援専門員がついている方は、就労アセスメントを受ける旨、
実習期間、アセスメント結果を保護者の方から
相談支援専門員に伝えてもらうことにした。



令和6年度の活動実績

4. 地域課題の検討

＜地域部会より＞

- ・ 通常学級に在籍する生徒の障害特性の理解
→ 教職員が障害特性を学ぶ時間は少ない、教育と福祉で連携して学ぶ場を！
- ・ 不登校児童への関わり方 → 本人や家庭へのアプローチの協力
- ・ 進路先に就労継続支援A型ではなく、一般就労やB型を選ぶ人が増加
→ A型が継続するかの危惧、希望と現実（本人の能力）の乖離
- ・ 卒業後のアフターケア → 相談支援専門員や就業・生活支援センター等と連携
- ・ 措置入所中の児童の卒業後のサービス利用 → 児童相談所や支援学校との協力